

「公衆衛生」第81巻総目次

2017年(第1号～第12号)

数字は通巻頁数、()は号数

特 集

◆ 81 巻 1 号「歯科口腔保健の推進」

歯科口腔保健の推進に関する「基本的事項」の取組状況と今後の課題：深井稜博，6(1)

健康寿命延伸のための歯科口腔保健—WHO の戦略：小川祐司，15(1)

東京都における歯科口腔保健法の動きと今後の展望：山本秀樹・権田昭二・山崎一男・高橋哲夫，21(1)

「オーラルフレイル」の予防—医科・歯科連携の必要性：飯島勝矢，27(1)

地域における摂食嚥下リハビリテーションの取り組みと課題：須佐千明・戸原玄，35(1)

乳幼児の口腔機能の獲得：向井美恵，41(1)

歯科疾患における健康格差とは？：相田潤，47(1)

秋田県における歯科口腔保健の取り組み：小畑充彦，55(1)

◆ 81 巻 2 号「人に死を招く動物—人・昆虫・寄生虫」

戦争とテロ：世界の公衆衛生課題：神馬征峰・國枝美佳，102(2)

介護殺人予防策の法制化が急務：結城康博，109(2)

殺人と傷害の衛生統計学：綿引信義，114(2)

蚊：蚊媒介性感染症：小林陸生，121(2)

ツェツェバエ：アフリカ睡眠病(アフリカトリパノソーマ症)：菅沼啓輔・北 潔，129(2)

吸血性サシガメ：シャーガス病(アメリカトリパノソーマ症)：三浦左千夫，135(2)

淡水産巻貝：住血吸虫症：大前比呂思，141(2)

カタツムリ・ナメクジ・イヌ・ネコ・アライグマ・キタキツネ—寄生虫：広東住血線虫・回虫・エキノコックス：三島伸介，147(2)

クマによる人身被害：大井徹，154(2)

◆ 81 巻 3 号「がん対策の加速化」

がん対策の加速化をめぐる課題と展望：門田守人，198(3)

個別化がん予防のためのゲノムコホート研究の意義と課題：内藤真理子，206(3)

肝炎対策による肝がん予防の加速化と課題：大座紀

子・溝上雅史，213(3)

がん死亡率低減に資するためのがん検診の課題と対策—特に精度管理について：斎藤博・町井涼子・雑賀公美子，221(3)

がん検診の拡大に伴う過剰診断等の問題点と今後の対策：祖父江友孝，229(3)

小児・AYA 世代のがん対策の課題と展望：堀部敬三，234(3)

希少がん対策の課題と展望：東尚弘，242(3)

がん患者の就労支援・相談体制の現状と課題—患者・家族の立場から：本田麻由美，247(3)

緩和ケアの推進に向けた課題と今後の対策：天野慎介，254(3)

◆ 81 巻 4 号「原子力災害と公衆衛生—避難指示解除後の地域復興に向けて」

福島原発事故発生から避難指示解除時期までの公衆衛生—課題の変遷と展望：安村誠司，284(4)

福島県原発災害後の公衆衛生体制—現状と課題：遠藤幸男，293(4)

原発事故避難生活者を受け入れたいわき市の地域保健体制への影響と課題：新家利一，300(4)

福島県浜通りの原発事故後の地域医療体制の変遷と残された課題：谷川攻一，308(4)

福島第一原発事故とその心理社会的影響：前田正治・緑川早苗・後藤紗織，315(4)

福島原発災害被災地の地域復興の現状と今後の課題：開沼博，320(4)

原子力災害後の生活回復を視野に入れた公衆衛生活動—飯館村の支援活動から学んだこと：黒田佑次郎，328(4)

避難指示解除された楢葉町と南相馬市の地域復興の現状と今後の展望：高鳥毛敏雄，336(4)

◆ 81 巻 5 号「眼の健康と QOL」

視覚障害は公衆衛生問題である—日本における視覚障害・失明の現状と原因の変遷：平塚義宗・小野浩一，364(5)

白内障の現状と対策：佐々木洋，372(5)

緑内障の現状と対策：山本哲也，383(5)

糖尿病網膜症の現状と対策：北野滋彦，389(5)

眼科領域における再生医療の現状と将来展望：栗本康夫, 397(5)

視覚障害者の QOL と包括的な支援：井上馨, 403(5)

視覚障害リハビリテーションの普及—視覚障害者の QOL 向上の鍵となる視覚リハの理解を目指して：吉野由美子, 409(5)

色覚の多様性に配慮した社会の実現のために：岡部正隆, 417(5)

カラーコンタクトレンズ、まつ毛エクステンション等の危害：川島素子・坪田一男, 424(5)

◆ 81 巻 6 号「食中毒の新たな課題」

日本における食中毒の発生状況：山本茂貴, 460(6)

カンピロバクター食中毒：朝倉宏, 470(6)

ノロウイルスによる食中毒：上間匡・野田衛, 476(6)

腸管出血性大腸菌による食中毒：大西真, 482(6)

新しい食中毒 エシエリキア・アルバーティー：今野貴之, 488(6)

新しい食中毒 クドア・セブテンブクタータとサルコシステイス・フェアリー：小西良子, 494(6)

あまり知られていない食中毒 アイチウイルスとサボウイルスによる集団食中毒：山下照夫・皆川洋子, 500(6)

あまり知られていない食中毒 A 群溶血性レンサ球菌による集団食中毒：四宮博人・林恵子, 506(6)

◆ 81 巻 7 号「予防接種政策」

最近における国内の予防接種制度の変遷とこれからの課題：齋藤昭彦, 538(7)

VPD に対する予防接種の効果の評価と課題：大石和徳, 544(7)

有害事象・副反応報告制度の変化と課題：岡部信彦, 550(7)

予防接種政策の変化に対応したサーベイランス：多屋馨子, 558(7)

新興ウイルス感染症に対するワクチン開発の現状：西條政幸, 566(7)

トラベラーズワクチンの現状と課題：金川修造, 575(7)

世界ポリオ根絶に向けた最終段階計画：清水博之, 584(7)

BCG 接種の課題と展望：加藤誠也, 592(7)

◆ 81 巻 8 号「衛生監視・指導行政の現状と課題」

食品のリスク分析・評価に基づく科学的な衛生監視指導体制の現状と課題：豊福肇, 618(8)

生活衛生行政の現状と課題—建築物衛生を中心に：柳原毅, 626(8)

HACCP による食品衛生管理の制度化の検討：道野英司, 632(8)

輸入食品の安全対策の現状と課題：梅田浩史, 640(8)

自治体における生活衛生監視指導体制の現状と課題—東京都における食品衛生監視指導に関わる課題と対応：中村重信, 648(8)

自治体における生活衛生監視指導体制の現状と課題—兵庫県の食品衛生監視指導体制の現状と課題：天野和幸, 656(8)

自治体における生活衛生監視指導体制の現状と課題—政令指定都市・横浜市の生活衛生監視指導体制の現状と課題：泉俊明, 664(8)

自治体における生活衛生監視指導体制の現状と課題—中核市・鹿児島市における衛生監視指導体制の現状と課題：伊地知洋幸, 670(8)

英国における衛生監視制度と、それを支えるプロフェッション：高鳥毛敏雄, 678(8)

◆ 81 巻 9 号「アルコール健康障害対策の推進」

アルコール健康障害対策推進基本計画の概要と今後の展望：今成知美, 706(9)

アルコール依存症の基礎理解と家族支援のアプローチ：田辺等, 712(9)

複雑化するアルコール関連問題と多様化する支援の現状—アルコール依存症治療構造改革のすゝめ：成瀬暢也, 718(9)

アルコール依存症治療の歴史—米国と日本の比較：岡崎直人, 724(9)

医療機関におけるアルコール・薬物依存症の治療プログラム：松本俊彦, 730(9)

アルコール依存症の重複障害：真栄里仁, 738(9)

断酒会—これまでの歩みと今後の発展に向けて：大槻元, 746(9)

鳥取県におけるアルコール健康障害対策推進計画の策定：原田豊・馬淵伊津美, 752(9)

◆ 81 巻 10 号「薬剤耐性(AMR)対策」

薬剤耐性問題に関する国際的動向と今後の課題：葛西健, 784(10)

日本の AMR 対策アクションプランの目標と戦略：大曲貴夫, 792(10)

厚生労働省院内感染対策サーベイランス(JANIS)からみた AMR 対策の課題と展望：柴山恵吾, 798(10)

AMR 対策としての抗菌薬使用動向調査の有用性：村木優一, 804(10)

食用動物由来薬剤耐性菌の現状と対策：田村豊, 810(10)

地域医療における AMR 問題の認識と、今後、求められる取り組み：青木洋介，816(10)

獣医療分野における抗菌薬の慎重使用の推進：浅井鉄夫，822(10)

水環境に拡散する抗菌薬，薬剤耐性遺伝子の汚染実態と課題：鈴木聡・高田秀重，828(10)

AMR 対策における保健所の役割と課題：緒方剛，834(10)

◆ 81 巻 11 号「薬局・薬剤師の地域展開—コミュニティ・ファーマシー—」

薬局・薬剤師の地域展開の意味—健康概念の転換と薬剤師の職能の変化から：赤木佳寿子，872(11)

地域において健康サポート薬局が担う役割：堀美智子，880(11)

薬局を拠点とした地域包括ケアへの歩みと今後の展望—医薬品事業者の立場から：孫尚孝，888(11)

薬剤師の卒前教育の現状と課題：赤池昭紀，895(11)
健康・医療・介護支援活動を支える，地域における薬局薬剤師の生涯学習—薬剤師会の立場から：宮崎長一郎，901(11)

薬局における健康管理支援の現状と課題—簡易検査（自己採血）を中心に：高橋寛，908(11)

地域の薬局・薬剤師資源を活用した薬局と保健所による保健活動の現状—大阪府藤井寺保健所管内の取り組みを中心に：松田岳彦，915(11)

ドイツにおけるコミュニティ・ファーマシーの現状と課題—ドイツと日本の比較：アッセンハイマー慶子，922(11)

残薬と医薬品の適正利用支援プログラム—諸外国のブラウンバック運動から学ぶこと：赤沢学，928(11)

◆ 81 巻 12 号「地球温暖化対策—2020 年以降の新たな国際枠組み—」

気候変動対策の国際交渉の概況：木野修宏，960(12)
パリ協定—その特質と課題：高村ゆかり，966(12)

地球温暖化の要因と社会への影響：横畠徳太，974(12)
気候変動と水災害：風間聡，982(12)

低炭素社会の実現に向けた取り組み：増井利彦，988(12)

地球温暖化防止に向けた市民の取り組み—脱炭素社会に向けた市民のチャレンジ：田浦健朗，996(12)

気候変動対策に対する日米の取り組み：山岸尚之，1002(12)

新興国・途上国の地球温暖化対策—クリーン開発メカニズムから二国間クレジット制度とカーボンプライシングへ：有村俊秀，1008(12)

視 点

健康な「まちづくり」と「まちおこし」—政令市型保健所の可能性：前田秀雄，2(1)

根拠に基づく健康政策を：堀川俊一，98(2)

将来を見据えた母子保健対策—子育て世代を地域で支える仕組みづくり：上原里程，194(3)

熊本地震における阿蘇地域の災害時保健医療活動を通して感じたこと：服部希世子，280(4)

中核市保健所における行政医師の確保のために：松岡太郎，360(5)

保健所での実践を振り返って：永井尚子，456(6)

神戸市における保健所の役割と課題：伊地智昭浩，534(7)

地域包括ケア時代—公衆衛生がリーダーシップを発揮する時機：向山晴子，614(8)

地域保健法と調査研究：氏平高敏，702(9)

公衆衛生医師の持ち味：田所昌也，780(10)

もっと運動器の健康を—公衆衛生の視点から：西脇祐司，868(11)

東大阪市保健所の危機：松本小百合，956(12)

投稿・原著

地理情報システムを用いた周産期医療に係る1 km²メッシュ単位の需給指標の開発：石川雅俊，67(1)

投稿・地域事情

ラオス血液事業の調査報告：山本大介・鈴木順子・松田利夫，433(5)

連 載

◆ いま，世界では!? 公衆衛生の新しい流れ

Neglected Tropical Diseases—SDG 時代の熱帯病制圧対策プログラム：矢島綾，164(2)

WHO における薬剤耐性(AMR)対策：中安優奈・井上肇，846(10)

◆ リレー連載・列島ランナー・94~105

新任期の保健師活動を振り返って：日野出悦子，75(1)

誰もが参加する地域包括ケアネットワークづくりを：前田小百合，171(2)

作業療法士として保健所の地域づくり活動を考える：矢野亮一，265(3)

明日香村をめぐる医療と介護のブランディング：武田以知郎，347(4)

「まちに出るほど健康になれるまち」—地域主体の健康

のまちづくり：井階友貴，439(5)
男性介護者支援—介護者支援のユニバーサルデザイン
を目指して：彦聖美，517(6)
多胎育児支援のネットワークづくり：落合世津子，
603(7)
chotCAST なんばの常設夜間休日 HIV 検査場におけ
る性感染症の動向—女性の梅毒増加：毛受矩子・熊
本光代，685(8)
今こそ、地域の力を！：鏈溝和子，763(9)
東日本大震災で被災した3県の被災地の母親たちを元
氣にするためのリフレッシュ・ママクラス®を実施
して：高村寿子，857(10)
学校保健と連携した思春期保健の取り組み—ピアカウ
ンセリングの25年間の事業経過と今後の課題：櫻
井和代，945(11)
東日本大震災津波から7年目—「子ども夢ハウスおお
つち」から「(仮称)おおつちコドモ未来塾」へ：鈴
木るり子，1015(12)

◆ 衛生行政キーワード・113～122

歯科口腔保健の推進に関する法律：高田淳子，63(1)
日本のテロ対策：公衆衛生的観点から：田村圭，
161(2)
日本のがん対策：橋本尚英・丹藤昌治，261(3)
一般住民に対する，放射線の影響評価とリスクコ
ミュニケーション事業の概要：寺原朋裕，342(4)
学校保健と眼の健康：北原加奈子，429(5)
厚生労働省における食中毒による健康危機管理：海老
名英治，512(6)
予防接種施策—第二次提言から現在まで：芳川修久，
598(7)
アルコール健康障害と厚生労働省の依存症対策：松崎
尊信，758(9)
薬剤耐性(AMR)対策の現状：野田博之，840(10)
地域包括ケアシステムにおけるかかりつけ薬剤師・薬
局の役割：紀平哲也・勝山佳菜子，933(11)

◆【講座】子どもを取り巻く環境と健康 23～24

社会経済要因の影響—(2) 認知／行動発達：喜多歳
子・岸玲子，79(1)
誰もが健康な人生のスタートを一世界で進む出生コー
ホート研究：岸玲子・湊屋街子・荒木敦子・宮下ち
ひろ，175(2)

◆ ポジデビを探せ！・3～13

ケース2：院内感染コントロール 小さな波から始ま
るポジデビ：前田ひとみ・河村洋子・上野洋子・南
家貴美代，85(1)
ケース3：自殺予防 これほど自殺の少ない町が存在

するとは—徳島県旧海部町に見出したポジデビ：岡
檀，184(2)
ケース4：認知症 旅のことば：認知症とともにより
よく生きるヒント：岡田誠・井庭 崇，268(3)
ポジデビ・アプローチ：これまでの経緯，日本での実
践，そして今後の展望：モニク・スターニン，
350(4)
ケース5：熱帯病対策 貧困の中の未解決問題に挑
む：荒木瞳，443(5)
ケース6：がん検診 ポジデビ活用のおすすめ—がん検
診受診率向上に向けた取り組みから：河村洋子・松
本承子・関淳子・長尾素子，520(6)
ケース7：難病患者会の運営 なぜあの患者会はうま
くいっているのか？：岡田純也・河村洋子，689(8)
ケース8：ネパールの学校保健 ジャンクフードとの
たたかい：宮口萌，768(9)
ケース9：ホームレスの結核対策 青空 DOTS：平山
恵，850(10)
社会変革とポジデビ：今とこれから：Arvind
Singhal・河村洋子，938(11)
ポジデビとソーシャル・チェンジ：起こす変化 vs. 起
こる変化：神馬征峰，1019(12)

コラム

◆ 予防と臨床のはざまで：福田洋

ヘルスリテラシーを高める保健事業：91(1)
行動経済学を職域でどう活かすか？：140(2)
現場からの発信を増やす！ 実践報告セミナー：
274(3)
健康経営を推進するための経営層へのアドボカシー：
346(4)
予防医療医，春の講演週間(前編)：450(5)
予防医療医，春の講演週間(後編)：528(6)
組織のヘルスリテラシーを高める健康経営：608(7)
主治医と産業医の連携：696(8)
第26回日本健康教育学会—前日企画：774(9)
Don and Hiroshi：862(10)
第26回日本健康教育学会学術大会—実践報告ワーク
ショップと大会2日目：950(11)
さんば会夏季セミナー 2017：1026(12)

◆ 映画の時間：桜山豊夫

うさぎ追いし 山極勝三郎物語：93(1)
アイヒマンを追え！ ナチスがもっとも畏れた男：
170(2)
汚れたミルク—あるセールスマンの告発：275(3)
サラエヴォの銃声：355(4)

草原の河：451(5)
台北ストーリー 4K デジタル修復版：529(6)
ローマ法王になる日まで：609(7)
静かなる情熱—エミリ・ディキンソン：697(8)
ボブという名の猫—幸せのハイタッチ：775(9)
AMY SAID エイミー・セッド：863(10)
はじまりの街：951(11)
ルージュの手紙：1027(12)

書評

印南一路 編著『再考・医療費適正化—実証分析と理念に基づく政策案』：中村好一, 46(1)
多田羅浩三 著『医学清話 健康を支える知恵と制度の歩み』：高鳥毛敏雄, 54(1)
上田剛士 著『日常診療に潜むクスリリスク 臨床医のための薬物有害反応の知識』：徳田安春, 684(8)
上田剛士 著『日常診療に潜むクスリリスク 臨床医のための薬物有害反応の知識』：山中克郎, 767(9)